

私を愛し、あなたを愛する気持ちを大切に

「差別をなくす強調月間行事」

国際連合は、1948年(昭和23年)世界人権宣言が採択された12月10日を人権デーと定め、全国各地で様々な人権についての行事や啓発活動を展開してきました。

伊賀市においても去る11月11日から12月10日の一カ月間を「差別をなくす強調月間」とし、期間中、各支所で人権作品表彰式、人権啓発ポスター・標語・パネル展、人権学習発表などが行われました。

市内2730人が各行事に参加することで、人権を身近に感じ、大切に思う気持ちを養うことができました。



【写真1】11月11日、ESPERANZAトーク&コンサート(鳥ヶ原会館) 【写真2】11月18日、壬生野小学校6年生が牛革をなめした締め太鼓で太鼓演奏(ふるさと会館いが) 【写真3】11月21日、ナース・ログトーク&コンサート(大山田農村環境改善センター) 【写真4】12月3日、韓国伝統芸能のグループ「SARAN」による舞踊(あやま文化センター) 【写真5】12月3日、江森陽弘さんの講演「これからは人権習慣」(伊賀市文化会館) 【写真6】12月4日、うちな～嘶家の藤木勇人さんによる一人ゆんたく芝居(青山ホール)

産学官が連携

メディカルフォーラム2005 in 伊賀

11月25日、市内のホテルで「メディカルフォーラム2005 in 伊賀」が開催されました。

このメディカルフォーラムは、三重県が進めている「メディカルバレー構想」に基づき行われたもので、産学官が連携し医療・健康・福祉に関する産業の集積と振興を図り、地域住民の健康と福祉の向上を目的としています。伊賀市は、薬事関連企業の立地が多いことから、この構想の重点地域にも指定されています。

この日は、岩手大学地域連携推進センター教授の小野寺純治さんが「INSから始まった岩手大学の地域連携」と題し、産学官民の連携のあり方について講演。また、アドック神戸事務局長の栄敏充さんが「産学官民連携で新市場の創出を目指す」と題し、阪神淡路大震災で打撃を受けた神戸企業を再建するために「アドック神戸」を立ち上げたことなどについて講演されました。





忍者や仮面ライダーも快走

2005 忍者の里 伊賀上野シティマラソン

11月27日、“風になって伊賀の里をかけぬけよう”をテーマに、「2005忍者の里伊賀上野シティマラソン」が開催され、北は群馬県、南は大分県からの出場者を含む2174人のランナーが参加しました。

レースはハーフ・10キロ・3キロ・ファミリージョギングの部で行われ、参加者の中には、忍者衣装や仮面ライダーのコスチュームを身にまとったランナーもおり、沿道からは盛んな声援が送られていました。

また、レースのあとは、豚汁のふるまいや忍者ショー、お楽しみ抽選会などがあり楽しいひと時を過ごしました。



「夢」「目的」「自立」

伊賀市キャリア教育フォーラム



児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育として定義されるキャリア教育の理解を深めるため11月30日、市内のホテルで伊賀市キャリア教育フォーラムが開催されました。

シンポジウムでは、市教育長がコーディネーターを務め、伊賀公共職業安定所長他3人のパネルディスカッションが行われました。パネリストと企業や保護者、先生の間で活発な意見が出され、将来を見据え小学生のときから子どもに夢と目的をもたせること、自立の力をつけることが重要であると話されました。

市では、本年度から中学校を中心とした5日以上の職場体験などキャリア教育実践プロジェクトを実施し、地域の教育力を活用して、さらなるキャリア教育の推進を図ります。

“小学生たち” 正月気分を満喫

ふれあいまつり／まなびあおやま子ども講座

12月3日、伊賀市腰山にある青山児童屋内運動場(旧矢生小学校体育館)で矢持公民館主催のふれあいまつりが行われました。

地域の老人クラブや健康づくり推進員の指導のもと、一般公募で集まった20組の参加者がもちつき体験やしめ縄づくりに取り組みました。

また、まなびあおやま子ども講座の小学生27人も同イベントに参加し、おじいちゃんとおばあちゃんから縄を編んで締める技や餅の丸め方を教わりました。講座で作ったしめ縄は自宅に持ち帰ってお正月飾りにします。

